

代表者 1C 児 玉 鼓羽太

指導者 岩 澤 利 哉

はじめに

今年度のふるさと教育「かづの学」では、1年生全員が、ふるさと鹿角の「研究の基礎」について学んできた。1学期は、「地域を知る」と題して、鹿角地域について知識を有する毛馬内こもせ商店街組合理事長の馬淵大三氏を迎え、3回の講演を聴講した。また、鹿角市先人顕彰館館長の小田嶋隆一氏には、顕彰館の案内と、鹿角の偉人について解説をしていただいた。2学期は、「地域で活動する」と題して、3コースに分かれて、地域を自分の体験を通して学ぶ活動をした。その1つが、9月17日（日）に行われた「かづの元気フェスタ」にスタッフとして参加する活動である。

I テーマ設定の理由

「かづの元気フェスタ」は、産業祭と福祉・介護のイベントを合同で開催している鹿角市の一大イベントである。そのボランティアスタッフとして運営に携わることで、イベントはどのように実施されるのか、どのような仕事があるのかなど、運営側としてもつべき視点について経験を通して理解することができた。

各部門に分かれてボランティアスタッフを経験したので、それぞれの部門での経験を通して感じたこと、また鹿角市について考えたことをまとめてみたい。

II 実施計画

- 1 ボランティア希望調査（7月11日）
- 2 希望調整（7～9月）
- 3 各部門割り当て（9月）
- 4 事前注意（9月）
- 5 かづの元気フェスタボランティア活動（9月17日）
- 6 体験活動のまとめ（10月10日）

III 調査・研究内容

- 1 社会福祉協議会、鹿角市日赤奉仕団

社会福祉協議会とは、営利を目的としない民間組織（社会福祉法人）である。1951年（昭和26年）に制定された社会福祉事業法（現在の社会福祉法）に基づき、各都道府県、市町村に設置され、鹿角市でも様々な活動を行っている。

日本赤十字社は、世界186カ国の赤十字加盟国と連携し、赤十字の理念である「人道」の実現のために、災害救援や国際救援をはじめ、地域における社会福祉、医療、血液事業など多方面に及ぶ活動を展開している。日本赤十字社では、東日本大震災をはじめ、国内外を問わず、災害救護活動など様々な活動を行っているが、市民の皆様からの会費が赤十字活動を支えている。

日赤鹿角地区（地区長児玉一鹿角市長、事務局鹿角市社会福祉協議会内）では日赤奉仕団や自治会の協力により、平成27年度は総額4,786,400円の会費が寄せられた。日赤奉仕団は、このような日本赤十字社の活動に協力・奉仕する団体である。

今年のかづの元気フェスタでは、アンパンマンや鹿角市のイメージキャラクター「たんぼ小町ちゃん」の着ぐるみを着て、九州北部地方の大雨災害義援金を募った。

この着ぐるみを着て会場内を練り歩く体験と着ぐるみと一緒に回り、義援金の募集を呼びかける体験をした。着ぐるみを着るとアンパンマンの気持ちになることができた。自然と子どもが寄ってきて、子どもと関わる楽しさを知ることができた。たんぼ小町ちゃんの着ぐるみは、頭が重く、靴も重く歩くのが大変で、中は暑く、息もしづらかった。いつも着ぐるみを着ている人の辛さや大変さを知ることができた。いつも簡単そうだと考えていた仕事が大変だと感じた。



写真1 アンパンマンの着ぐるみで義援金募集

2 物販売

毛馬内の和菓子工房芳徳庵さんが出店をしていて、ワッフルを販売していた。芳徳庵さんのワッフルは、いろいろな種類があり、保存料を使用せず、つくった当日のみ販売するため、生地はふわふわでたいへん人気のある商品である。

今回、この販売を担当した。この体験を通して、お金の計算、お金を稼ぐたいへんさ、お客さん呼び込むたいへんさ、接客のたいへんさなどを知ることができた。また、商品を袋に入れる向きやシール貼りの貼り方が決まっていて、細かいところまで気を遣っていることがわかった。



写真2 芳徳庵さんのワッフル販売

手作り工房あ〜るさんのブースでの販売のお手伝いをした。小さなフライパンの上にオムレツなど精巧な料理のミニチュアがのっているものがストラップになっているフライパンストラップやスプーンの上にお菓子がのっているもの、お寿司のミニチュアなど手作り作品の販売を担当した。

今回の体験を通してお金を稼ぐことの辛さやお金の大切さがわかった。これからは、働いている人に感謝し、将来働いたら、お金を大事に使いたいと思った。

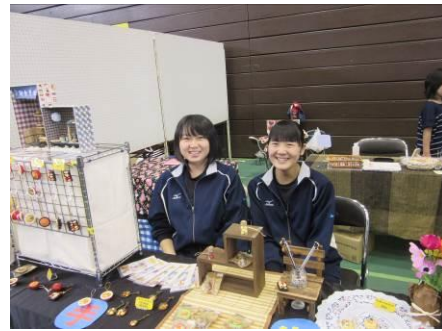


写真3 手作り工房あ〜るの販売ブース

3 駐車場係

かづの元気フェスタの会場は、鹿角市役所前広場及び周辺施設だったが、駐車場の車の誘導ボランティアを担当した。

車両の誘導を体験してみて、安全に関わるので、おろそかにできない仕事であること、運転手にはっきりとわかる誘導指示を出す必要があること、複数の人が連携してやるとスムーズに誘導できること、中には指示に従わない車もあることもわかり、駐車場係のたいへんさを身をもって感じる事ができた。また、笑顔でありがとうと言われることもあり、そういうときはやりがいを感じる事ができた。

元気フェスタでの車の誘導を体験して、県内だけでなく、青森県など他県からも訪れる人がいた。このようなイベントが増えれば、地域の活性化につながるのではないかと思った。



写真4 駐車場での車両誘導

IV おわりに

かづの元気フェスタにボランティアスタッフとして参加して、地域の人とふれあい、地域の活性化を支える一役を担えたことは、たいへん貴重な体験だった。また、鹿角地域には、魅力的な特産物や技能があり、様々な方面で頑張っている人達がいることがわかった。私たちも将来何かしらでふるさと鹿角を支える一役を担うことができればよいと思った。